

立教大学×豊島区 あなたと共につくる子ども・ 若者のまちづくり意見交換会

2024年12月18日 実施報告



報告者：中野 航綺

日本大学文理学部社会福祉学科 助手

Mail：nakano.koki@nihon-u.ac.jp

企画概要

- 企画名：立教大学×豊島区 あなたと共に作る子ども・若者のまちづくり意見交換会
- 開催日時：令和6年12月18日（水）17:20～18:50

実施体制

- 会場：新座キャンパス4号館N422教室
- 主催：立教大学コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科
担当 原田 峻 准教授
- 共催：豊島区
- 司会進行：中野



当日の参加者

- 学生5名
 - 学年: 2年生3名、4年生2名
 - 所属学部: コミュニティ福祉学部、法学部、社会学部
- 教員4名
 - 原田准教授、中野先生、他2名
- 豊島区職員3名

企画開催経緯

• 目的

- 学生の意見を政策に反映し、若者が安心して成長できる社会の実現を目指す。
- 豊島区「子ども・若者総合計画」の改定に向けた意見交換。

• 背景

- 中野（第32期豊島区青少年問題協議会委員）より提案。
 - 非常勤講師として立教大学で「少子高齢社会論」を担当
- 立教大学と豊島区の連携により企画具体化。

準備

- 10月中旬から、原田准教授・豊島区下山氏・中野の3者で打ち合わせを実施。
- 授業や学内広報活動を活用し参加者を募集。

立教大学×豊島区 あなたと共に未来をつくる 子ども・若者のまちづくり意見交換会

12月18日（水）17:20～18:50 新座キャンパス 4号館 N422教室

豊かで住みやすい地域を実現するためには、そこに暮らす若者の意見を共有し、まちづくりに反映させることが欠かせません。

今回、立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科では、豊島区と共に「豊島区子ども・若者総合計画」の策定に向けた意見交換会を開催します。

【企画について】

豊島区では、子ども若者が安心して成長し、希望をもって未来を築けるように、様々な施策に取り組んでいます。その方針を示すものとして「豊島区子ども・若者総合計画」を策定しており、現在改定を行っています。この意見交換会を通じ、子ども若者施策についての理解を深めると共に、若者の視点・意見を計画に取り入れたいと考えています。当日は豊島区より子ども・若者施策についてお話しいただき、その後、ワークショップ形式で意見交換を行います。

【参加対象・申し込み】

この意見交換会は、豊島区在住・通学者に限らず、立教大学の全学部・全専攻の学生を対象としています。参加を希望する学生は、Google Formにてお申し込みください。

申し込みURL：<https://forms.gle/UiEwFbwMYhtstixth9>
(下部のQRコードからもアクセスできます)



主催：立教大学コミュニティ福祉学部 コミュニティ政策学科
共催：豊島区
司会：中野 航綺 先生（コミュニティ福祉学部 兼任講師）
お問い合わせ：5577953@rikkyo.ac.jp

申し込みは
こちらから！



当日の進行

- 趣旨説明（中野先生）（5分）
 - 若者の閉塞感や少子高齢化問題を議論の起点とし、実践的な学びの場を提供。
- 自己紹介（15分）
 - 各参加者が学びや関心テーマ、進路について発表。
- 豊島区からの説明（30分）
 - 子ども若者施策や子ども若者総合計画の概要を説明
- フリーディスカッション（50分）
 - 説明を踏まえ、設定したテーマについて意見交換

当日の様子



意見交換

- 授業との関連
 - 社会問題としての少子高齢社会
 - 社会全体で取り組む必要性和その困難さにフォーカス
 - ただし結果として、将来への漠然とした不安感や閉塞感を強調しすぎてしまった
→ 「子どもを育てられる自信がない」との学生コメント
- 実践的で将来志向の学び
 - 当事者としての意識や関心に基づいたワークショップ
 - 子ども若者政策に関する関心を意見を共有
 - 計画の改善案やアイデアを検討

テーマと内容

- **大学生活と豊島区の関係**
 - 学年進行と共に地域との関わりが変化。
- **豊島区の印象**
 - 駒込や雑司が谷など地域の多様な魅力。
 - 「大人のまち」「消費するまち」との意見も。

テーマと内容

- **居住性への意識**

- 子育ての困難さや住環境への制約。
- 豊島区の支援施策への関心。

- **将来像と家族・子育ての不安**

- 明確なキャリア・ライフプラン（例：昇進、結婚、転勤経験）。
- 子どもが生まれた場合の成長に対する不安の声も。

4. 総括

- 若者世代の特徴

- 中長期（10年程度）を見越したライフプランや政策への関心。
- 自身やパートナーの経験を基にした判断材料。

- 課題

- 自治体の取り組みが学生に十分浸透していない点。
- 同世代内で問題意識が閉じがちで、広く社会共有されにくい傾向。

運営上の反省点と今後の課題

- 成功点

- 大学・自治体間の連携と情報提供

- 反省点

- 参加学生数の少なさ
- 時間不足
- 新座キャンパス・遅い時間帯での開催が影響

- 今後の対応

- アンケート結果を基に計画の改善案を検討
- より多くの学生が参加できる条件を整備

全体評価

- 短期間で計画・実施された初めての試みとして、学生の政策理解を深める場を提供できた意義深いイベント。
- 学生からのコメントも示唆的（別紙参照）